

# 民報あばしり

NO.866

2012.5.20

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三三・四四五八  
F四三三・四四五七

## 原発のない豊かな暮らしをめざして 「3・11を忘れない！オホーツクネットワーク」の 立ち上げ集会

「3・11を忘れない！オホーツクネットワーク」の立ち上げ集会が、5月13日（日）午後1時30分からエコーセンターで行われました。

はじめに、主催者を代表して清水晶子（画家）さんが、3・11福島原発事故以後、原発から遠いオホーツク地方にも、その影響がはじめている。福島からの避難者、本州の食材を使った学校給食の放射能不安、震災ガレキの受け入れなど、問題意識をもった個人やグループがゆる



いネットワークでつながろうという趣旨で、この会はうまれたとあいさつがありました。

続いて、記念講演に移り、小野有五北大名誉教授から「子どもたちの未来のために北海道の未来のために泊原発をとめよう！」という題で講演がありました。

日本列島は、ユーラシアプレート、北米プレート、太平洋プレート、フィリピンプレートの4つのプレートに挟まれている。そのプレートがずれることにより地震が発生しているとメカニズムについてお話がありました。また、原発大国といわれているドイツ、フランス、アメリカなどは、地形的にもともと地震がないところである。世界的に見ても日本のようにプレートの上に原発を建設するなどは、異常なことであると地形図を示しながら説明しました。

さらに、道内の市町村別「がん死亡率」について、全国を1000として全道平均104.8であるのに対し、泊村144.9、岩内町125.5、福島町124.0、松前町122.5、積丹町110.6となっていて、興味深いデータが示されました。最後に、5月5日をもって原発稼働はゼロになっているが、政府や電力会社がいかなる電力不足は起きていない。

一人一人が節電に努力して、再生可能エネルギーに転換して、原発に頼らない社会にすべきであるとお話でした。原発のない社会にするため、思想信条にとらわれず手を結び、国民世論で原発を廃炉にする必要があると感じました。

## 松浦奮戦もろ

5月5日に泊原発が定期点検のため稼働が停止し、稼働している原発はゼロになりました。13日、志位委員長は、記者会見して原発問題をめぐる日本共産党の基本的立場を述べ、「いまなすべきことは『原発ゼロの日本』への政治決断です。そうしてこそ新しい展望が開けてきます」と強調。その中で「政府がいま進めている無謀な原発再稼働の押し付けには、一片の道理も科学的知見のかけらもない」と述べました。

①福島原発事故の原因究明に程遠い②政府が必要とした「安全対策」なるものすら取られていない③地震・津波の学問的知見の根底からの見直しの議論は始まったばかり④原発事故が起こった場合の放射能被害の予測も住民避難計画もない⑤まともな原子力規制機関がつかられない。世論調査の結果でも55%を超える国民は、政府が安全確認しても再稼働には反対という結果がでていようように再稼働はあり得ません。

## いっせ東奔西走

4月から全ての公立小・中学校、高校で使用される放射能に関する副読本に不適切な内容があることが道議会でも明らかにになりました。

教師用では、原発などの事故に関する指導上の留意点として「しばらくたつと放射性物質が地面に落下することから、マスクをするなどのそれまでの対策を取らなくてよくなることを理解させる」と書いてあり、共産党真下議員から「対策を取らなくてよいとはならない」「その後の対策はどう教えるのか」と追求され道教委は「落下後の対策の記述がなく戸惑うので、国の指導助言を得て対応する」と答弁。また、「リスク（危険）を完全に無くしてベネフィット（便益）だけを得ることは不可能」との記述に「福島事故もリスクとして許容されるのか」と追求され答弁できず、「各市町村教委と学校の判断」と強制しない考えを示しました。

この副読本、東電、中電の役員が名を連ねる「日本原子力文化振興財団」の作成です。作成委員長は、文科省の放射線審議会の前会長で、食品の放射性セシウム基準を4月から厳格化するための意見募集に反対意見の投稿を求めるメールを送り、厚労大臣から「あつてならないこと」と批判された人物です。生まれも育ちも不適切な副読本です。

## 流水

七人もの死者をだした、バス事故が発生しました。もちろん大ニュースになり、バス会社の経営者や運転手の責任など詳細が次々と報道されました。この事故だけではなくホテル火災など人災と思われるものが続発しています▼報道を読み聞き見ているとジャーナリストらしく

このの本質を突いていないのではないかと、ある種怒りさえ覚えてしまします▼運転手の睡眠不足、料金の安売り、過当競争、人員配置不足、いろいろなあげて、規制緩和の問題に多少なりとも触れている報道もあります。しかし、自公政権時代、とりわけ小泉首相時代に「構造改革」「規制緩和」「民間活力」などの耳障りのいい単語で社会の仕組みそのものを変えてきたことまで触れる報道は殆どありません▼この構造改革の名の下で起きたこと・・・派遣労働者の急増・非正規雇用・ワーキングプワ・雇止め・ホームレス・自殺者増、長時間労働・企業倫理の崩壊・・・これらは国民・労働者の人権や尊厳を奪いひいては命まで奪っているといえるのではないのでしょうか▼こんな現状は維新の会・橋下市長のように独善的・独裁的な言動を取る人物が人氣を博し、それをさらにマスコミが煽るといふことになってしまいました。▼私たちは、このの本質がどこにあり、正すべきことは何なのかをしつかり見抜いていかねばならない・・・そのためには「しんぶん赤旗」を読むことが大事だと・・・最近ますますおもしろい。